

令和6年度第1回 静岡県立伊豆の国特別支援学校
伊豆下田分校学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年5月28日（火）午前9時30分から11時30分まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校 図書休養室

3 参加者

学校運営協議会委員

氏 名	所 属 等
高橋 栄彦	広岡西区 区長
村木 康隆	社会福祉法人伊豆つくし会ワークあおぞら事業所長
徳島 一信	株式会社開国 取締役
黒田 恵美	伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校PTA会長

学校教職員

職 名	氏 名	所 属 等
校 長	松本 仁美	
副校長	廣瀬かよ子	
部主事	鈴木 雅枝	小学部
部主事	鈴木 理史	中学部

4 内 容

- (1) 概要説明
- (2) 校内見学
- (3) 学校運営協議会委員任命
- (4) 学校運営協議会の目的について
- (5) 学校経営計画の説明と承認
- (6) 教育長メッセージについて
- (7) コンプライアンス委員会

5 議事録

- (1) 概要説明

下田小学校に平成20年に併置となって、17年目。

小学校併置の特別支援学校は静岡県で唯一。共生共育を実践している。

今年度は、小学部9名中学部7名 計16名の児童生徒が在籍。

障害は、知的障害と知的障害を伴う肢体不自由の児童生徒。

学区は賀茂地区1市5町。今年度は下田市と松崎町の児童生徒が在籍。

- (2) 校内参観
- (3) 学校運営協議会委員任命
- (4) 学校運営協議会の目的について

校長：コミュニティースクールについての説明

学校運営協議会の機能について

地域・社会に開かれた学校、地域とともにある学校づくりに向けて、
学校をよりよくしていくために協力いただきたい。

- (5) 学校経営計画の説明と承認

副校長：学校経営計画書より重点の説明

安全教育の充実について。地震津波防災訓練の様子（V T R視聴）

地域とつながる教育活動の報告

委員：障害があることを公表して、理解者を増やしていくことが必要と思
う。そうすることで周りが声をかけ、応援者になってくれる。

民間との交流を増やすと楽しいことが増えると思う。もっと民間と交
流していくとよい。うちの会社も以前一緒に魚の学習をした。協力で
きることをしていきたい。

委員：避難場所の防災倉庫は、行政に働きかけてもなかなか理解を得られな
かった。3年かかって実現した。今後も、地域とともに行政に働きかけ
ていくことが必要。

委員：地域とつながる活動では、作業学習やボッチャ等、うちの施設を交流
先とした活動も考えられる。

委員：安全教育は、防災も大事だが、防犯教育も大切。不審者などから逃げ
ることや助けを呼ぶことを指導している。自分の命を守れる力を付ける
ようにしたい。

委員：地域に障害を持った子供が少ないと感じる。子育てにも迷いがあるが
相談できる人やところが少ない。地域の課題で、高等部進学時の交通
手段の少なさなど悩みがある。

校長：伊豆の国特支本校は浸水の危険がある。地域と一般避難所としての提
携を検討している。分校2校は津波・土砂災害の心配が大きい。避難
のV T Rを見たが、実際には地域住民や観光客、高齢者も避難してく
る。教員が児童生徒を担いでの避難も考えられる。地域の人と連携し
実際に即した訓練をしていく必要がある。さらに、助けられるだけで
なく、助ける側の人にもなってほしい。

地域とつながることが大事。その地域も、高齢化や過疎化も踏まえ、
5年後10年後どのような年齢構成の地域になっているのか。地域や行
政に働きかけて、地域の方と話し合いつつ、広く長期的な視点を持っ
て、何がたりなく、何が必要かを考えることが必要。

知的障害があってもやれることはたくさんある。地域や社会へ、学校

が貢献できることは何か考えていきたい。

(6) 教育長メッセージについて

校長：伊豆の国特別支援学校本校の取り組みを紹介

授業時間数や行事を見直し、行事の開催の形を変えたり、平日開催にしたりした。

行事は土日ありきではなく、子供のために平日に休みが取れる社会でいたい。

留守番電話、ZOOM、ホームページ、COCOO の活用。ペーパーレス化。

教員が業務に専念できるように教員・保護者の意識改革をすすめる。

(7) コンプライアンス委員会

副校長：今年度の取り組みを説明

校長：昨今の教職員の不祥事について説明

取り組みを形式だけにしない。人権感覚を育て、意識を高める。

職場の仲間として、大人として話をし合える関係を作る。

外部の方の「えっ」という視点や気づきを大事にしたい。

委員：福祉施設では、過去の他県での虐待事例の反省を受け「今していることが、当たり前になっていないか。」「本当にこれでよいのか」と常に問うことを実施している。第三者や地域の方に入っていただき、外部からの目を大事にしている。

委員：経営者として、誰のための何のためのコンプライアンスかなど、日々迷う。改善策としては、労働環境の整備。長時間勤務の見直しなど、労働環境をホワイトにすることを試みている。

委員：組織の中でパワハラ、カスハラなど、いろいろなハラスメントがある。新たに役職に就いたときなど、注意や意識が大事と思う。

委員：職場でも、人に求めるとき「できて当たり前」という感覚になってしまふことがある。相手の立場や思いを慮る気持ちが大事。